

2018年7月10日 大学図書館長期研修

利用者の情報行動

筑波大学図書館情報メディア系 教授
筑波大学附属図書館研究開発室 室員
筑波大学人工知能科学センター 研究員

逸村裕(いつむら ひろし)

本日の話の流れ

- 1.大学の中で図書館はー最初の質問ー
- 2.変容を続ける利用者の情報行動
- 3.利用者に関わるさまざまな概念
- 4.司書資格における「図書館情報技術論」
- 5.学生とソーシャルメディア
- 6.学術コミュニケーションにおける情報行動の変容
- 7.筑波大学情報学群知識情報・図書館学類での経験
- 8.図書館サービスはどう変わっていくのか？

Does anybody really know what time it is?

Robert Lamm

1.最初の質問

- 1.あなたの大学の自慢できることは何ですか？
- 2.あなたの大学の学生数は？
- 3.あなたの大学の学生の授業出席率は？
- 4.学生によるあなたの大学の図書館満足度は？
- 5.あなたの図書館の自慢できることは何ですか？
6. あなたの図書館の閲覧席数は
- 7.学生一人当たりの年貸出冊数は？
- 8.図書館が力を入れている図書館サービスは？
- 9.あなたの図書館に協力的な教員は何人いますか？
- 10.学生が図書館に対して不満に思っていることは？

(1)大学内での位置づけ

知識/情報は力
関係情報を入手する
的確な処理
実態を把握する
味方を増やす

大学内でのやりとり

図書館のやることってお金かかるよね

でも図書館が言うんだっただろうがない
かな

(2)大学設置基準

大学での学びは「学修」

大学での学びの本質は、講義、演習、実験、
実習、実技等の授業時間とともに、授業のため
の事前の準備、事後の展開などの主体的な学
びに要する時間を内在した「単位制」により形
成されている

1単位は45時間の学修を要する

卒業単位124単位であれば

$124\text{単位} \times 45\text{時間} = 5,580\text{時間}$

一年平均1,395時間

開講期間中、一日平均8時間の学修

利用者のニーズの多様性

図書館内のみ
アクセス可のDB



速報性重視



EJやDBに
リモートアクセス



入門書が必要



他の図書館の
資料が必要



図書館内で
資料とにらめっこ



(3)日本の大学生

授業には出席する

日本の大学生

授業には出席する

授業と学習のバランスは良くない

高校と大学の違いがわからない

ゼミ 卒業研究の比重が高い

能動的な学修？

学修支援が必要

教職員はこれをどう考える

一週あたりの授業以外の学習時間

26時間以上	2.4%
21-25	1.9%
16-20	3.2%
11-15	7.3%
6-10	18.4%
1- 5	57.1%
0	9.7%

(4)日本の大学教員

担当コマ数

平均8コマ

設置別・主題別・種類別で多様

日本と米国の大学教員比較

一週の活動時間

教育	11.5-16.5時間 (24)
研究	18.5-22.5時間 (14)
社会貢献	4.5- 9.0時間
それ以外	10.0-11.0時間 (11)

(1)利用者とは？

利用者は何を求めて図書館にアクセス？

考えてみましょう

(2)社会の変化

ユニバーサル化した大学

少子化が迫る

財政逼迫

大学の存在意義

科学技術・学術審議会

学術情報委員会

教育振興基本計画 2013年6月

8-1 改革サイクルの確立と学修支援環境整備

学長を中心とするチームを構成し、学位授与の方針の下で、体系的な教育課程の編成、組織的な教育の実施、厳格な成績評価、成果の可視化と評価、その結果を踏まえたプログラムの改善・進化を行うという一連の改革サイクルが機能する全学的な教学マネジメントの確立を促進する。

そのため、教学に関する制度の見直しを図るとともに、補助金等の配分に当たっては、例えば、組織的・体系的な教育プログラムの確立など、十分な質を伴った学修時間の実質的な増加・確保をはじめ教学上の改革サイクルの確立や積極的な情報公開への取組状況を参考の一つとする。

その際、ティーチング・アシスタント等の教育サポートスタッフの充実、学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化、ICTを活用した双方向型の授業・自修支援や教学システムの整備など、学修環境整備への支援や、基本施策17の学生に対する経済的支援も連動させながら促進する。ICTの活用に関しては、例えば、近年急速に広まりつつある大規模公開オンライン講座（MOOC による講義）の配信やオープンコースウェア（OCW）による教育内容の発信など、大学の知を世界に開放するとともに大学教育の質の向上にもつながる取組への各大学の積極的な参加を促す。あわせて、学生の思考を引き出す教科書等の教材や教育方法の開発・研究など、教育に関する特色ある自発的な取組を支援する

(3)情報技術の進展

図書館における情報技術とは何？

「館」に來ない図書館利用者

論文の探し方・読み方(2013)

上道茜(筑波大学燃烧工学研究室大学院生)

<http://www.slideshare.net/akaneuemichi/ss-19884095>

(1) デジタルネイティブ

A digital native is a person for whom digital technologies already existed when they were born, and hence has grown up with digital technology such as computers, the Internet, mobile phones and MP3s.

現在の学生は物心ついた時からインターネット、携帯電話、動画、電子情報源を用いた環境にいる、いわゆるデジタルネイティブである。

(2) デジタルイミグラント(移民)

A digital immigrant is an individual who grew up without digital technology and adopted it later.

成長してから、デジタル技術に習熟したものをデジタルイミグラントと呼ぶことがある。

ソーシャル・メディアやクラウドコンピューティングさらにTwitter、Instagram、LINEと次々に現れる情報通信技術を使いこなす若者を世代論と結びつけて多様な呼び名が存在する。

2000年世代(millennials)、76世代、86世代、デジタルネイティブ第1世代/第2世代、ネオデジタルネイティブ...

(3) デジタルネイティブの特性

- a. PCリテラシーは高い
- b. 書くのにはPCが便利
- c. インターネット＝PCである
- d. ノートPCは画面が小さくて不便
- e. テレビを話題にしなくなった
- f. 動画とは見るもの

デジタルネイティブの特性として○がつくのは？

(3) デジタルネイティブの特性

g. ニュースとは

h. ウェブとは

i. 読書とは

j. 図書館とは

マイクロ資料

書評紙

新聞縮刷版

(3) デジタルネイティブの特性

日本の学生

読解学習能力

ITC能力

情報リテラシ能力

図書館不安(Library Anxiety)

大学図書館は大きい

どこに何があるかわかんない

使い方が複雑

オリエンテーション受けたけど、よくわからない

レファレンスサービスわかりにくい

こんなこと聞いていいのかな

急いでいるのにー

図書館を利用しない/利用する

利用しない理由

- 電子ジャーナル、電子ブックで用が足りる
- (貸出すれば)研究室の方が作業環境がいい

利用する理由

- 電子化されていない資料の利用
- 館外持ち出し不可の資料を使う作業
- ソファで寝転がって読書(そのまま寝る...?)

図書館を

利用しない理由

- － レジューメ、教科書、ノートがあれば勉強できる
- － 行く暇がない(バイト、サークル、デート)
- － そもそも勉強／学習をしない

利用する理由

- － 実験/レポートや卒業研究の一部
- － 時間が空いたからなんとなく
- － 新聞や一般雑誌や図書を読む
- － 友人/彼/彼女と待ち合わせ

図書館を利用する2つの理由

1 必要に迫られて利用する

- 必要な資料がそこにしかない
- 他に作業をする環境がないetc...

⇒・利用が多い≠良い図書館...？！

2 行きたい図書館だから利用する

- 居心地がいい、「なんとなく」行く気になる
- 選択肢の中から選ばれる図書館

⇒・利用が多い＝良い図書館...？！

切り分けの難しさ

こんな図書館はイヤ

必要に迫られて行ったのに需要に上手く応じていない

- 排架位置がわかりにくい、複写に時間がかかる、必要な資料がないetc...

行きたくない図書館

- 空調よくない、家具の使い心地、無線LAN等の環境、利用可能なスペースの問題、デザイン、(人がいない)

必要にも応じていないし、なにもない時に行きたくもならない図書館

図書館のこんなところがダメ

2つの理由の存在が意識されていない？

- 利用がないのが悪いこととは限らない(電子環境を整備すれば必要に迫られた利用は減る。
- 「利用者の時間を節約せよ」
- 仕方なく使っていることと、好んで使っていることの混同

「行きたい図書館」を目指しつつ「必要に迫られた」
学生に対応するには...？

「図書館情報技術論」

(1)概要

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を
修得するために、コンピュータ等の基礎、
図書館業務システム、データベース、
サーチエンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解
説し、必要に応じて演習を行う

高校教科「情報」で半分は教わっている

5.学生とソーシャルメディア

授業中のTwitter利用

動画配信

ビブリオバトル

SNS利用を図書館がどう考えるか？
GoogleとWikipediaの利用

事例 ggrks

(1)研究者と評価

評価にさらされる研究者
任期制・テニユアトラック・年俸制
広島大学とか。

(2)電子ジャーナルのインパクト

図書館に研究者が来なくなった

Open Access Journal

Open Access Mega Journal

APC

Predatory

Research Gate

Sci-Hub

(3)若手研究者の情報行動は近未来を変える？

図書館はどうコミットできますか？

ITCに馴染んだ「若い世代」が学術世界の様相を変える？

Article Level Metrics

Altmetrics

(4)Open Access= Access + Reuse

オープンアクセスがビジネスになった時代

(5)Open Science

Data Science

Data Centric Science

Data Curation

DOI

ORCID

図書館は何ができるか？

何をしなくてはならないか？

事例 一年生A君の中間授業評価

そもそも、授業というのは、教師が黒板に一つひとつ、問題と模範解答を板書するのが正しいのである。

ところがX大というのはどの教師も腐っている。

ちっとも板書をしない。そもそも問題などというものは、見たことがないものが解けるわけではないのに、解けない問題、解き方のパターンを教えない問題ばかりを出してくる。こんな問題を出すのは時間の無駄だ。

事例

B教授の話

他大学から院にやってきた学生とじっくり話し、ある研究課題を与えた

1ヶ月後、「先生、意地悪しないで、そろそろ正解を教えてください」と言ってきた

他大学から大学院にやってきた学生への配慮
図書館は対応していますか？

(1)学生動向

簡便に！

素早く！

学生は忙しい

大学一年生の自己評価

情報探索に関する根拠なき自信

レポートを書くことへの不安

CiNiiは知らない

フリーライダー

「文」は書く

長い論理的な文章を書く機会がない

剽窃問題

文献を探してレポートを書く課題

Tulips(OPAC)の使い方と請求記号等を教える

学生のレポート作成手順

1. 検索戦略を考える
2. Tulips(筑波大学OPAC)で検索
3. 図書、雑誌論文、機関リポジトリコンテンツを数件発見
4. オンラインで読めるもの**最初の数件だけ**でレポート作成
5. そのことを悪びれずにレポート作成作業手順に記す

a.教科「情報」は機能しているのか？

Word Excel Power point HTML

サーチエンジン

メディアリテラシー Webブラウザ

ネット犯罪 情報セキュリティ 情報倫理

メール

HTML

GUIと CUI

著作権 プログラミング

PCメールを書けない

名乗らない 宛名書かない Ccしない 本文無しで添付ファイル

電子メール

PCから電子メールをどの程度利用しています？

ほぼ毎日

週に数回

月に数回

年に数回

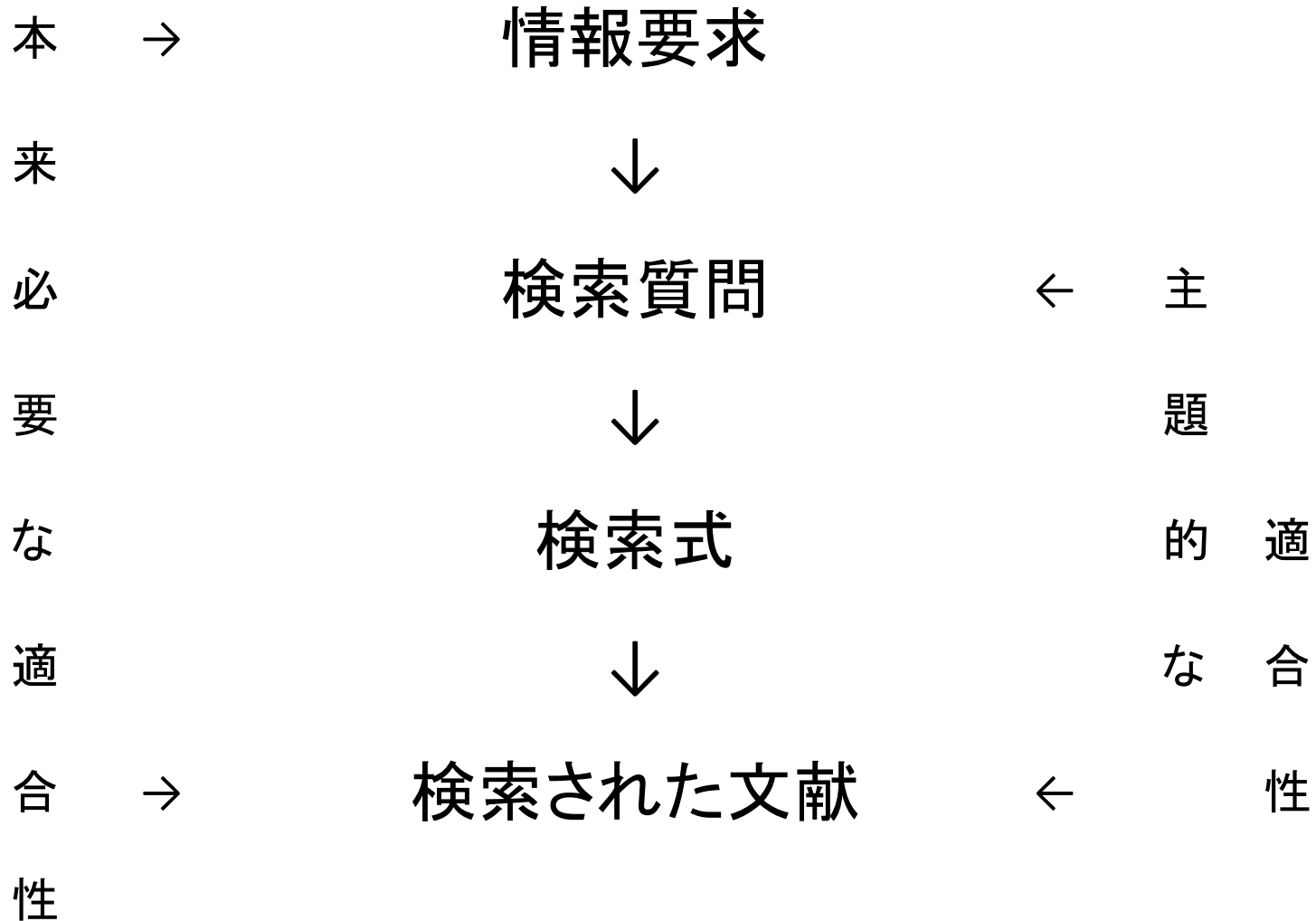
現在は利用していない

b.ウィキペディア アマゾン

知らないものを調べる

小説やドラマの設定を調べる

検索の流れと適合性



情報要求

心奥の
意識した
言語化した
妥協した

(2)ログ分析とアイトラッカーによる実験結果

筑波大学中央図書館を場とした実験
学生と図書館員に同じ探索をしてもらい、違いを調査する

(3) 図書館オリエンテーションは有効なのか？

筑波の調査

(1)図書館サービスの在り方

e-learning 機関リポジトリ 情報リテラシー
ラーニングコモンズ 飲食・・・

今、図書館サービスに何が求められていますか？

(2) OPACの在り方

なぜOPACはサーチエンジンのように使えないのか？

ディスカバリーサービス

すぐに入手できないフラストレーション

(3)教育学習との協同

学修

アクティブラーニングって何？

反転学習

シラバス 読んでますか？

カリキュラムとの連動

学生の情報探索行動をもっともよく知っている
のは図書館員？

アクティブラーニング

教員による一方的な講義形式の教育とは異り、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブラーニングの方法である。[u](#)

(4)学生の意見を聴く

学生は何を考えているのか ?

(5)ラーニングコモンズ

目的は？

まとめ

利用者の情報行動とは？

図書館(員)が信頼されること

図書館不安を小さくする

教育学修支援

いろいろな可能性.

研究支援

何ができる？何をするべき？